

国語の学習について

6年生の国語の目標

目的や意図に応じて、考えたことや伝えたいことなどを的確に話すことや相手の意図をつかみながら聞くことができるようにするとともに、計画的に話し合おうとする態度を育てます。

目的や意図に応じて、考えたことなどを筋道を立てて文章に書くことができるようにするとともに、効果的に表現しようとする態度を育てます。

目的に応じて、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てます。

1年間の学習内容

	学習する教材名	おもな学習内容
一 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・つないで、つないで、一つのお話（話・聞） ・支度（読む） ・カレーライス（読む） ・春のいぶき（書く） ・笑うから楽しい（読む） ・学級討論会をしよう（話・聞） ・森へ（読む） ・河鹿の屏風 ・夏のさかり（書く） ・ようこそ、わたしたちの町へ（書く） 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手の一文をよく聞き、続きを作ります。 ・詩を読んで表現のよさを見つけます。 ・登場人物の心情に共感したり反発したりしながら物語を読み、味わいます。 ・短歌や俳句を味わい、春を感じる言葉を集め書く。 ・筆者が読者に考えてほしいと願っていることを読み取り、自分の考えをまとめます。 ・賛否が分かれる問題について、それぞれの意見の長所・短所を考え、相手を説得する話し方の工夫を討論会の流れに沿って学びます。 ・筆者の体の動き・心の動きに寄り添って、未知の自然の物語を読み、味わいます。 ・「河鹿の屏風」の読み聞かせを聞きながら、登場人物の関係や場面の様子をとらえるようにします。 ・二十四節気や俳句を味わい、作ります。 ・町のよさを伝えるパンフレットを作ります。
二 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・せんねん まんねん（読む） ・たのしみは（書く） ・平和のとりでを築く（書く・話す・聞く） ・生活の中の言葉 ・やまなし/イーハトーヴの夢（読む） ・秋の深まり（書く） ・『鳥獣戯画』を読む（読む） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「せんねん まんねん」をいろいろな音読の仕方を行います。 ・短歌や俳句を味わい、作ります。 ・筆者の言いたいことを読み取り、自分の考えを持ちます。 ・平和について調べ、考えをまとめ発表し合います。 ・日常で使われる敬語を学び、場面によつての使い分けを考えるようにします。 ・場面の情景と、二ひきのかにの様子や気持ちを想像しながら、物語の世界を読み味わいます。伝記「イーハトーヴの夢」を読み自分の生き方を考えます。 ・短歌や俳句を味わい、秋を感じる言葉を集め書く。 ・筆者の言いたいことを読み取り、自分の考えをもちます。

	<ul style="list-style-type: none"> ・この絵、わたしはこう見る(書く) ・狂言 柿山伏(読む) ・天地の文 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を見て感じたことや読み取ったことを文章に書き友だちと交流します ・狂言の調子や表現のおもしろさを味わいながら声に出して読んだり、昔の人のものの見方や感じ方を知ったりします。 ・「天地の文」を音読します。
三 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・未知へ ・自然に学ぶくらし(読む) ・忘れられない言葉(書く) ・春を待つ冬(書く) ・海の命(読む・書く) ・今、わたしは、ぼくは ・中学校へつなげよう ・生きる(読む) ・生き物はつながりの中に(読む) ・かなえられた願い—日本人になること 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩を音読し感じたことを文章にあらわす。 ・文章を読んで感じたことを交流し、自分の考えを広げたり深めたりします。 ・随筆のよさを味わい、書く。 ・冬を感じる言葉を知り、季節の様子を入れて手紙を書く。 ・主人公が人との関わりの中で成長していく様子について、文章を読み味わいます。 ・小学校生活を振り返り、いちばん心に残っていることが聞き手に伝わるようにスピーチします。 ・4つの教材をもとに、自分なりの課題を考え取り組むことで、自ら学び、自ら考える力をつけます。

家庭へのお願い

○音読に一年間取り組んでいます。文章をしっかりと読めることが、正しい理解につながります。教材文をくり返し読んだり、読書の習慣をつけたりすることがとても役に立ちます。ご家庭でも、一緒に教材の内容を楽しみながら聞いてあげてください。心を育て、生涯を支える良書に出会えるのがこの時期です。ご家庭でも読書の習慣作りにご協力下さい。

○漢字学習は、漢字の意味や成り立ち、書き順などを学習した後は、くり返し丁寧に書いて覚えることが大切です。家庭学習においても漢字を学習し、日常生活の中でもノート等しっかり漢字を使えるように学習していきましょう。

○少し余裕を持って、子どもの話に耳を傾けてください。会話を楽しむことを心がけてください。話せる子を育てるために、お子様が家庭の中で話せる機会を増やしましょう。